



とうほうの風

～ やさしい心 丈夫なからだ みんな仲よく ひとりだち ～

令和7年(2025年) 7月18日 発行

暑すぎる“夏休み！”さあ Do する？

ご家庭中心の「計画的な」生活を…。

【園長：田川隆司】

夕方にかけての雷雨や夜中の大雨により、朝の息苦しさが少しだけ和らぐ日ができてきたのは気のせいでしょうか…。

私が中学校や小学校の校長だった時、「命を大切に、自分を大切に」という言葉を、ことあるごとに話していました。守られるはずの子どもが、保護者の不注意による不慮の事故で命を失ってしまう、また、川や海での水難事故により自ら命は助かっても救助しようとした人が命を落としてしまうなどという悲しいニュースがあらわれる時代。学校というところだけでなく、生活の一コマ一コマでそれぞれ人とのコミュニケーションを大切に、社会を築く一員としての“ステキな大人”に近づくため、そして、心揺れる感性豊かな日々を送り、家庭生活でも「命に対する責任」をもって日々生活してほしいと願っています。



東邦幼稚園でも、特に年少さんは、家族から一歩踏みだす初めての園の生活に毎日ドキドキすることや、保護者と離れることが難しく朝から号泣してしまうことの毎日でしたが、月日が経つと少しずつくましくなった気がします。年中長の園児にとっても、頑張っているのに失敗したり、友人関係のトラブルがあったり、まだまだ先生に甘えてしまう等、決して平穏な日々ばかりではなかったと思います。しかし、そのような日々の出来事（エピソード）にも、園児なりの「役割」や「責任」を果たして乗り越えるからこそ人は成長していくのです。見守られながら「ひな」が成長し、いつか巣立っていくように彼らも少しずつその準備を始めているのでしょう。

さて、そんな彼らが日々の生活において“ステキな大人”になるために「知力」や「体力」、そして、たくましくてやさしい「豊かな感性」がどれだけ育ってきたのでしょうか。個人懇談会では、担任を窓口としていろいろな側面から、この一学期に子どもたちがどれだけ成長できたかを確認したかと思います。これからは、明日（7/19）から始まる「夏休み」というものについて少し考えてみましょう。

日本での「夏休み」は、先進国のそれと同様、様々な「自主活動」の良い機会としてとらえられ、普段、学校園ではなかなか体験しにくい活動や受け身で教えられるのではなく、じっくりと自らの疑問や研究等の課題に打ち込む「自分の時間」を確保できる「ゆとりと醍醐味」がありました。日々の生活時間に追われることなく「のんびりする」ことも、自然とふれあい「遊びに徹する」ことも、成長期の「脳」を活性化するとともに、様々な場所で多様な人との出会い、あるいは運命的な本との出会いから喜怒哀楽という「感じる力」やある種の直感的な「閃（ひらめ）く力」を養う大切な期間になっていたのではないのでしょうか。そういう力こそが、いまの社会で一番必要とされる「非認知能力」を基礎とした「生きる力」として求められているのだとつくづく思います。

地球規模での異常気象をはじめ、不自然な猛暑からくる「熱中症」のリスクが増加する中、これからの夏の過ごし方も「ご両親の働き方」同様に考え直さなくてはならない時代。東邦幼稚園に通う子どもたちの楽しい「夏休み」の過ごし方も「新しい経験」として、様々な工夫のもと、ぜひ有効に活用して思い出に残る「今年の夏」にしてもらいたいと願っています。

何度も書きます。『子どもの時の数々の「体験」は、将来“ステキな大人”になるための第一歩である』ことを忘れずに…。

まずは、体の基礎をつくるためにも、家族全員「早寝、早起き、朝ご飯」を守りましょう。次は、さて何を計画されますか？ 日々、ご家族でお話をする時間が少なくなっているというデータも見られます。夏休みの初めに計画を立てるのも一つの方法ですし、計画通りにいかなかったことも次への大切なステップとなります。人は失敗を繰り返して学んでいくのですから…。

どうか、貴重な夏休み期間を有意義なものにするためにも計画をタイトルだけにせず、実践に移していけるように願っております。保護者とともに過ごす今年だけの「真新しい夏」、心と体に良い「体験」ができることを期待しています。

【保護者の皆様へ】 一子どもたちとの「家庭生活」を大切にしてくださいー

本園は、幼稚園型認定こども園として、1号認定児だけではなく2号認定児をお預かりしています。様々な家庭環境の元から、早朝より笑顔で元気に挨拶ができる子どももいれば、まだまだ眠たい目をした子もいます。恥ずかしがり屋なのか興味があるのか、目だけで私を追う子どもも見られます。そこで、保護者が『挨拶しなさい！』と言ったとしても、効果は薄いでしょう。まずは大人がしっかりと挨拶している姿を見せて“聴かせておくこと”が大切です。今はまだ自分のものになっていない挨拶の「言葉」も、周りの「大人の姿」を見て聴いて育っていくものです。そんなステキな「言語環境」を作るのも幼稚園と保護者の協力によるものです。給食がなく昼食の用意の手間も増えますが、お箸やスプーンの持ち方や衣服の着脱、自分のくつの揃え方など、お子様とじっくり向き合う時間を工夫していただき、親子ともども規則正しい生活が崩れないよう注意しながら、外では目を離さず、適切な助言をお願いいたします。

私からの約束事には『あいさつ、返事、くつそろえ』も増やしています。

小中学校では『たしかな学力、豊かな心、たくましい体』等のいわゆる『心・技・体』へとレベルアップしていきます。当たり前のことを当たり前にできるようになってほしいと願うのは、いずこも同じところでしょう。（世界中の「当たり前」が変わってきているのが心配ですが…。）



園長の【四方山話（よもやまばなし）】

【『死ぬな、怪我すな、病気すな』の今昔物語】

「夏休み」前の「終業式」が行われる時、よくかけられる言葉に『死ぬな、怪我すな、病気すな』というものがあるのは、保護者のみなさんでも記憶の片隅にある人がいるのではないのでしょうか。いわゆる長期休業の間に、海や川などの水の事故や交通事故等で幼い命が失われるニュースが絶えません。

しかしながら、最近は信じられない「虐待」事案が報じられ、我々、保育・教育に携わる者には法的に「通告義務」が発生し、万が一の場合を絶えず心配せざるにはいられない時代となってしまいました。

様々な家庭環境があると思いますが、子育てに関しては、どうかお一人で悩まずご相談願います。

【今年も言います！親のかかわり・その2：「お箸の国の人だから…」】

お子様の「お箸の持ち方」って考えたことはおありでしょうか？

TV の旅番組やグルメ番組で芸能人やアナウンサーが名物料理を食べるシーンがありますよね。いわゆる「食レポ」です。

いつもながら、あの場面で、“えっ！”と思わずにはいられないお箸の持ち方をする人がいてとても残念に感じます。少し前の「和食ブーム」につづき、「日本の“文化体験”」で多くの外国人が次々来日し、高級な日本料理だけではなく、あのラーメンやトンカツをお箸で一生懸命食べようとする場面を見かけますが、外国人のみなさんは、しっかりと“正しく”お箸を持っています。うまく使えていないのは仕方がないと思いますが、きちっと“正しく教わった”持ち方だというのがわかります。



比して、同じお箸を使う国である東南アジアの人たちが使っているその様子を見ると、必ずしも“正しく”とは思えないことを多く感じます。お箸を“正しく”持つという「日本の文化」は、「鉛筆」等の筆記用具を“正しく”持つことに必ずリンクします。公教育の現場で長年見て指導してきましたし、鉛筆の持ち方が「学習」に少なからず影響していることは事実です。

古くは「シャーペン禁止」という時代もありましたが、それもはっきりとした理由があったからで、それを説明できない学校や教師は、決まりを押しつけてくる理不尽な存在としてしか映っていませんよね。

日本の誇る指先が器用な「文化」がこれまで生み出してきた様々な“技術力”は、大量生産や合理化という名の下に機械化が進む中で極めて危うくなってはきており、「無形文化財」という名の下に“技”が評価されつつも、高齢化や身につけるまでの“修行”、そして今後のAI化を考えると、次代への「継承」はどんどん難しくなっていることでしょう。

しかしながら、“技”までいかなくとも、日常の学習に繋がるそのスタートであるお箸が、幼い頃から「脳」を鍛えるツールであることは科学的にも確かなことですので、どうか恥ずかしい大人にならぬようご家庭でも見直してみてもいいのではないでしょうか。

大人になってからではなかなか治りませんから…。

今週末の参議院選挙にむけて、各党の「党首討論」を度々ニュースで見ることがありました。いつもながら感じるのですが、歴代の総理大臣をはじめとする各党の立派な？政治家が党の政策などをフリップに自筆で書き込む場面では、「あの人がこんな字を書くんじゃあ…」と驚きを隠せませんでした。百歩譲って、多少の上手い下手（うまいへた）はあったとしても、全国放送で流れるニュースで書き表す文字なのにもう少し丁寧に、いや“心ある字”が書けないものかと。

これから8月にかけて、忘れてはならない戦争の歴史が多く語られることになりますが、いわゆる「特攻兵」として、大切な人へ遺（のこ）した手紙の字のなんと美しいことか…。

日本の舵取りを行う政治家の皆さんに、改めて彼らが遺した文字への思いを考えてもらいたいですね。